

環境保全型農業を推進し、 遊休農地を解消しよう

～学校給食への食材提供の取り組み～

松川町・松川町農業委員会
ゆうきの里を育てよう連絡協議会

令和5年7月8日 中山間地域フォーラム 設立17周年記念シンポジウム

松川町のデータ



東京（TOKYO）まで高速バスで3時間30分
名古屋（NAGOYA）まで高速バスで2時間

松川町は、長野県南部の下伊那郡の最北、伊那谷のほぼ中央に位置し、東西約21km、南北約6kmで、総面積72.79km²。

役場の位置	
海拔	542.33m
緯度	35° 35' 50"
経度	137° 54' 35"
地番号	元大島3823

松川町のデータ

中央道周辺
果樹園地帯



長野県



松川町



天竜川流域
水電地帯



松川インター

松川町

天竜川

中央道

国道153号線

町の中央を天竜川が北から南へ流れ、川の東西に段丘が形成され、東側には工業団地と水田地帯が、傾斜地では、水稻、畜産、小梅の栽培などが行われている。西側は、水田地帯から住宅地、商店街、工業団地が開け、梨、りんごなどの果樹栽培が盛ん。

松川町のデータ

総人口		12,666人	*1⇒	12,318人	① ⇒	12,231人	⑤
世帯数		4,442世帯	*1⇒	4,470世帯	① ⇒	4,484世帯	⑤
農業就業人口	..	1,459人	*2⇒	1,066人	②		
農地面積		1,384ha	*3⇒	1,321ha	③		
農振農用地		943ha	*4⇒	942ha	④		
遊休農地面積	..	235.5ha	*3⇒	239ha	③ ⇒	170ha	⑥
経営農地面積	..	748ha	*2⇒	625ha	②		

*1松川町調査数字(2019年10月1日現在) ①(2022年6月1日現在) ⑤(2023.4.1現在)

*2 農林業センサス(2015年) ②(2020年)

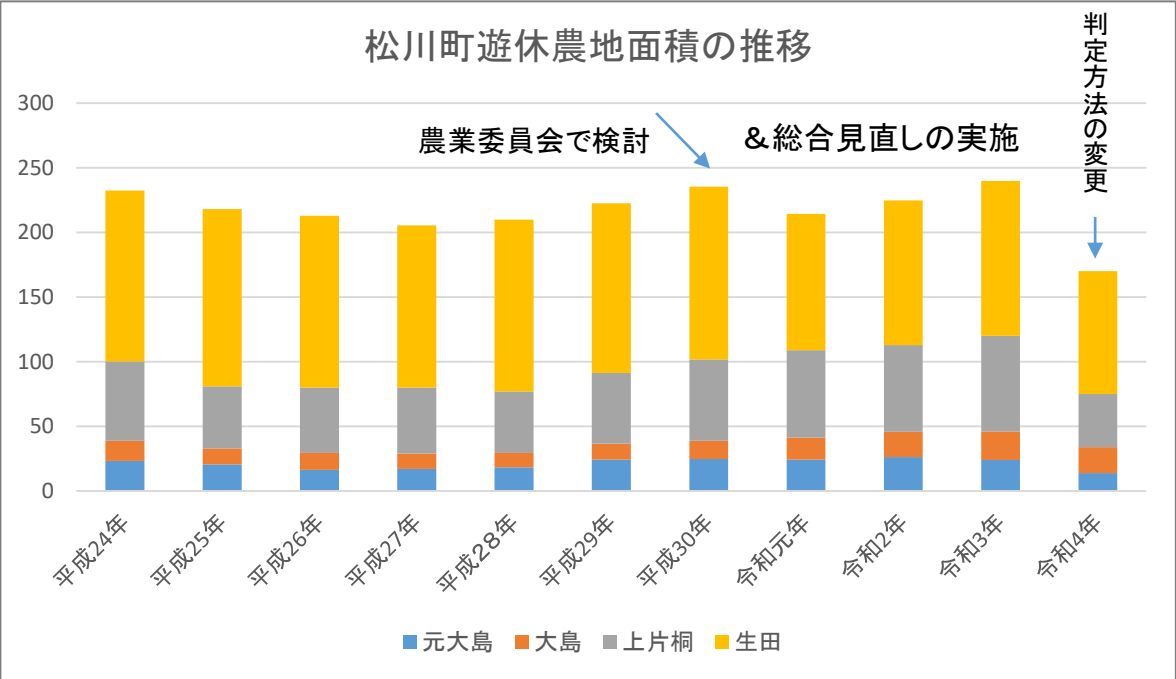
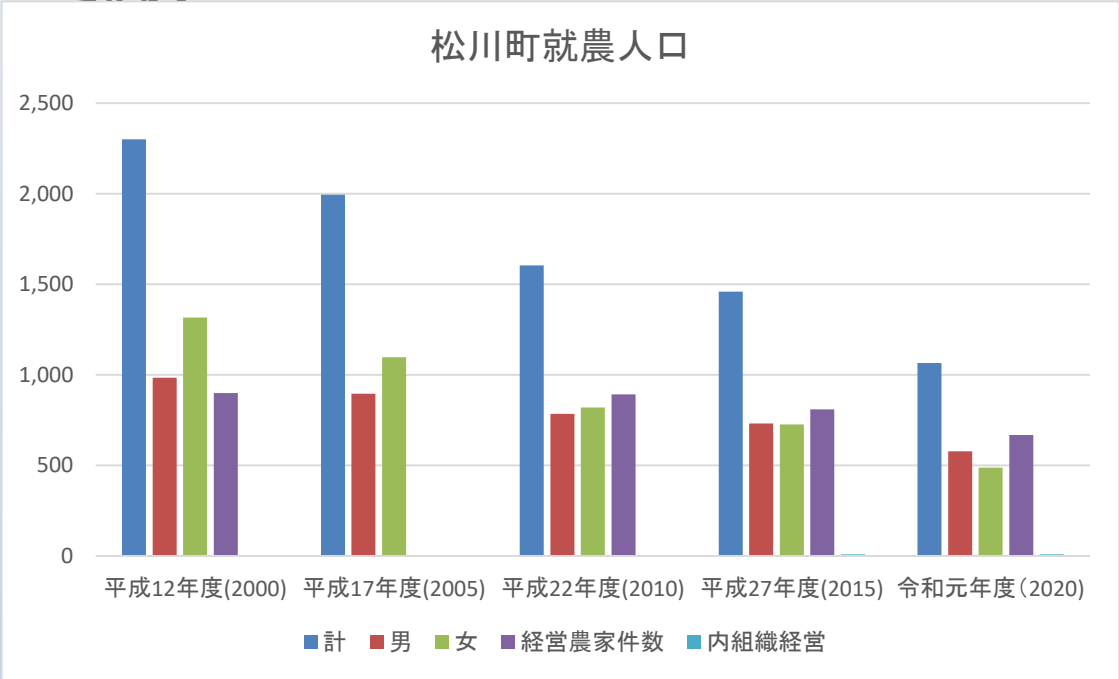
*3 松川町農業委員会による利用状況調査(2018年11月) ③(2021年11月) ⑥(2022年11月調査内容変更)

*4 松川町集計(2019年2月7日許可最終) ④(2023年3月許可最終)

松川町の農業・農地の現状

松川町の農業従事者・農地面積・遊休農地の推移

・ 現状



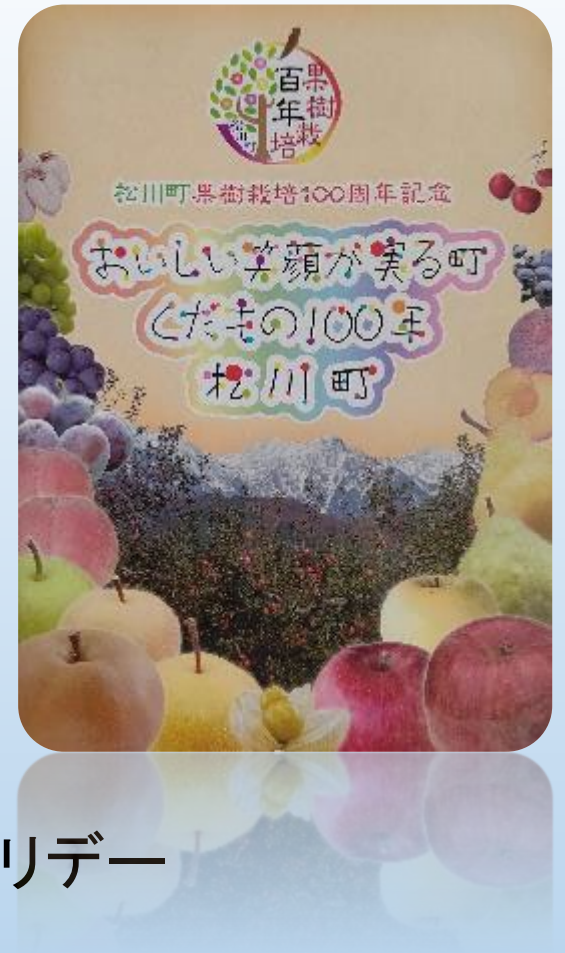
松川町耕作面積 単位ha			
耕作面積	田耕地面積	畑耕地面積	内樹園地
1,030	235	795	604

※令和元年度農林水産関係市町村統計 作物統計調査により(果樹・普通畑についてはH18統計時の割合にて算出)

松川町の農業・農地の現状

遊休農地対策として

- 新規就農者の受け入れ支援 ～果樹研修制度～
- 新規法人参入の支援 9件の農地所有適格法人の内、
6件が果樹栽培を中心に行っている
- 労働力の補完 シルバー人材センター、ワーキングホリデー
- 農地の集積・集約化
- 農地の斡旋、マッチングによる流動化
農地相談員を設置し、情報収集及び売買、賃貸借の支援



松川町の農業・農地の現状

平成30年6月
遊休農地対策について検討開始（松川町農業委員会）

①人・農地プランの実質化を検討

- H25.3

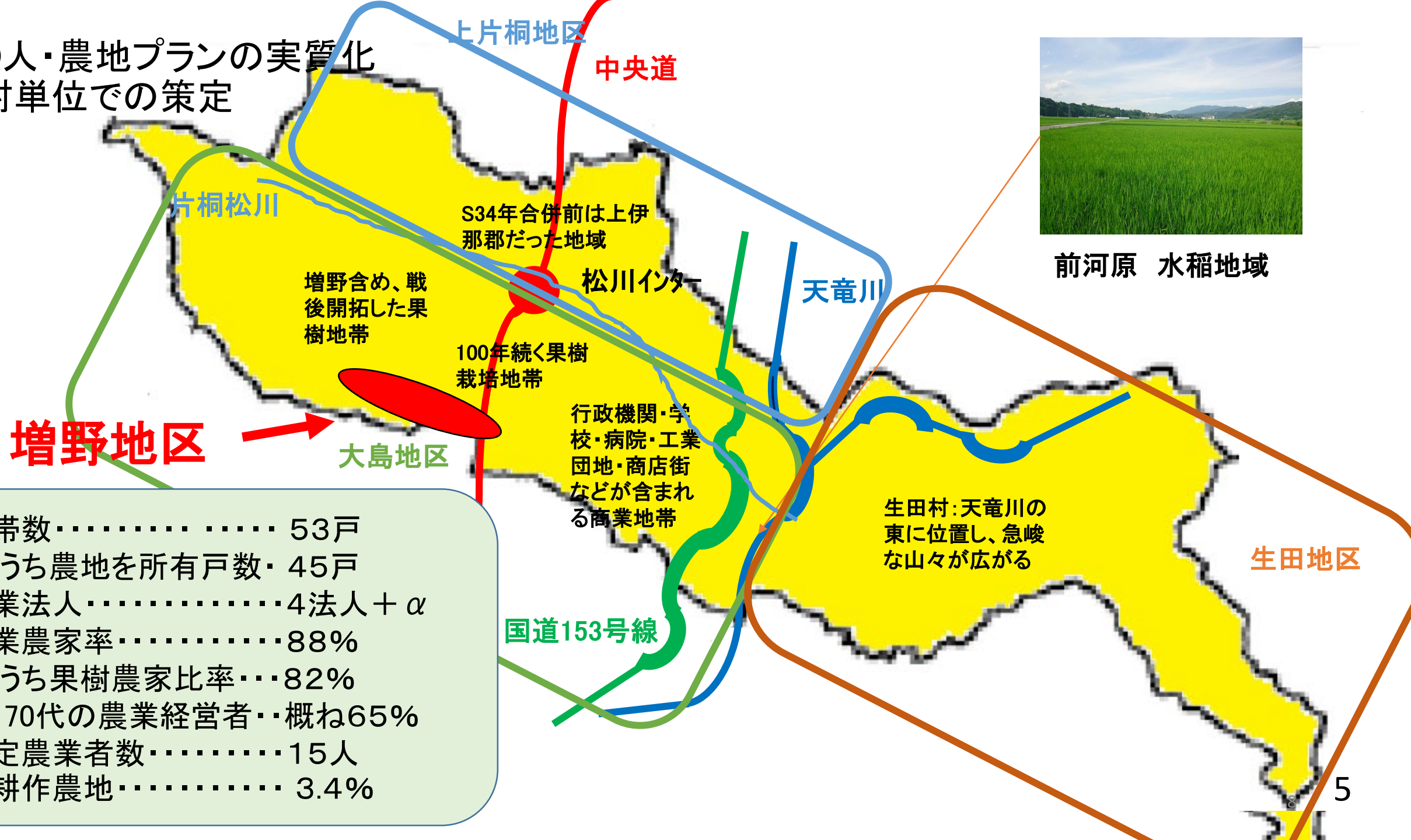
認定農業者・農業法人を経営中心体に、
町全体で1つのプランを策定

- 旧村単位での策定を模索
「大島地区」「上片桐地区」「生田地区」の
3つのエリアでの策定を考える

②ふれあいガーデン利用者増のため、1人1坪農園の推進



①人・農地プランの実質化 旧村単位での策定



世帯数..... 53戸
うち農地を所有戸数・ 45戸
農業法人..... 4法人 + α
専業農家率..... 88%
うち果樹農家比率... 82%
60・70代の農業経営者... 概ね65%
認定農業者数..... 15人
不耕作農地..... 3.4%

①人・農地プランの実質化 モデルとなった増野地区



- (1) 全戸アンケートの実施
- (2) 増野の現況把握
- (3) 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針



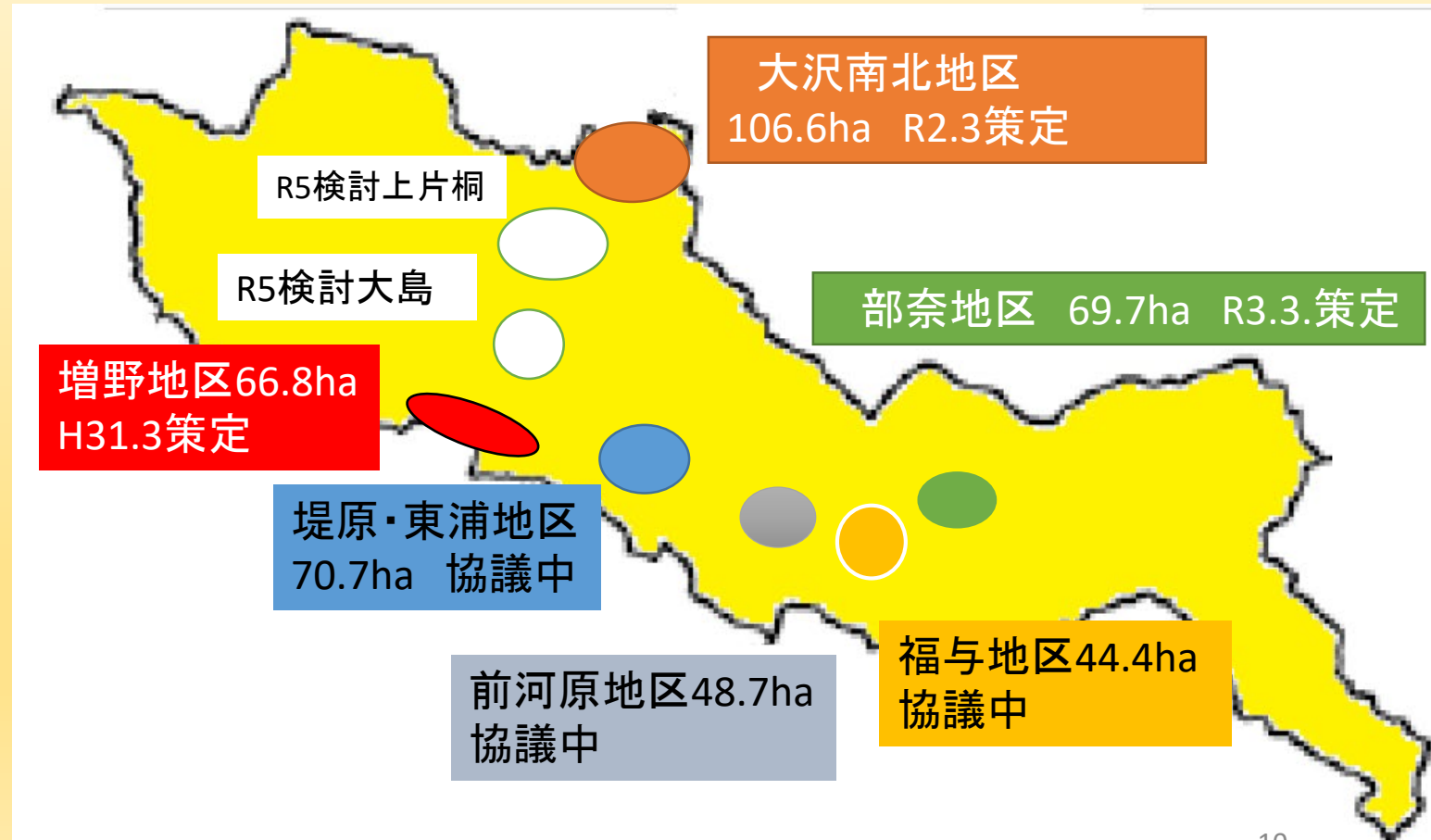
農業法人・40歳以下
の後継者がいる農地を色分け

話し合いの実施

①人・農地プランの実質化

他の地区への「地域計画」(人・農地プラン) 取り組みの波及

- 第1回 現状把握
- 第2回 いままでの意見をもとに
SWOT分析 & クロスSWOT
ワークショップ°
- 第3回 具体的なテーマのもと、
ブレインストーミング & KJ法で
ワークショップ°
- 第4回 出された意見を
もとにプラン策定



①人・農地プランの実質化

地区によって思い描く夢が違い、新しい取り組みも生まれています。

- 増野地区（耕作できない農地は地域内で受入れを検討。
地域内のコミュニケーションを密にするため、収穫祭を行う。）
⇒楽しみまし農が生まれ、有機栽培に取り組み 学校給食への提供開始
- 大沢南部・北部地区（新規就農者の受入れを行い、支援する。）
⇒ゆめ農隊発足。松川町で行う果樹研修生の受け入れ支援につながる
- 部奈区（地域内で栽培された農産物のブランド化を推進する。）
⇒お米のブランド化（有機でのコメ作りを提案。除草が課題。売り先も）

②ふれあいガーデン利用者増のため、1人1坪農園の推進 令和元年の取り組み

☆ 農地を次世代に継承していくために
住民1人1人のかかわりを大切に
(長野県発元気づくり支援金事業へ申請)

・1人1坪農園の推進

- ・農地を持たない人へのふれあいガーデン(市民農園)の斡旋
- ・ケーブルテレビにて野菜づくり指南番組を放送
- ・「健康でおいしい野菜をつくる」講演会 野口勲氏

※ R2.10農業委員による千葉県いすみ市視察
有機米100%学校給食実現!!



2020.2 吉田太郎さんの勉強会
松川町有機農業研究会主催



②ふれあいガーデン利用者増のため、1人1坪農園の推進

令和2年の取り組み

令和元年の事業に加えて

長野県有機農業推進プラットフォーム担当 吉田太郎さんにアドバイスいただき、事業実施
(長野県発元気づくり支援機事業へ申請)

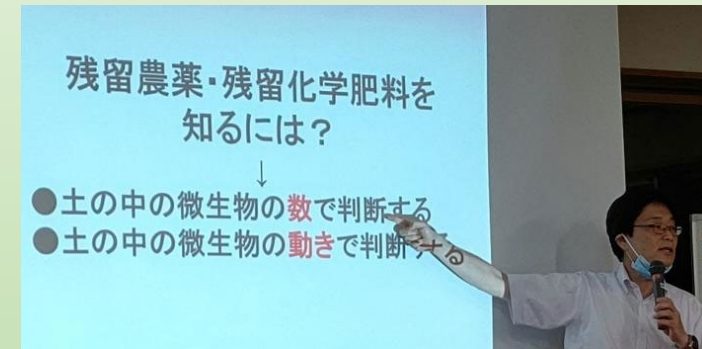


2020.6 吉田太郎さんの勉強会
有機農業と有機学校給食

★ 松川町環境保全型農業の推進

ア 各種講演会「土壌微生物による物質循環での土づくりを」
SOFIX農業推進機構久保幹氏

「菌ちゃん野菜の作り方」 吉田俊道氏



イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施

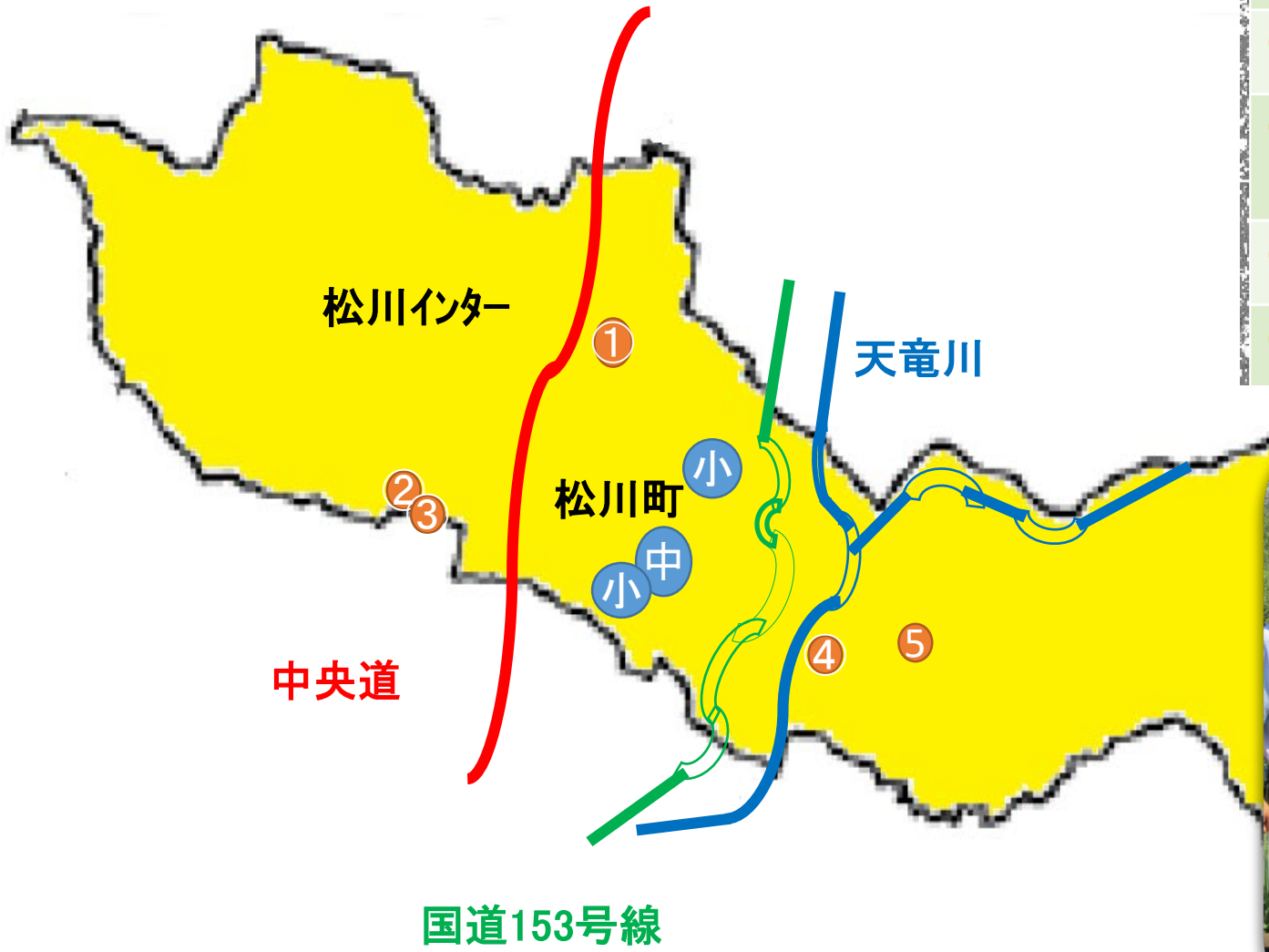
ウ 学校給食への食材提供(実証圃場で栽培されたもの等)



・ 12月 松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会発足

★ 松川町環境保全型農業の推進 R2

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施



栽培品目	生産者	作付面積
①にんじん	牛久保二三男	900m ²
②ネギ	寺沢茂春	500m ²
③ジャガイモ	楽しみまし農 北沢ひろみ	266m ²
④お米	久保田純治郎	1251m ²
⑤玉ねぎ	信州農園 多田英樹	1000m ²



★ 松川町環境保全型農業の推進 R2

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施



太陽熱マルチをした後に播種。太陽熱マルチは夏に効果あり（春は温度が低い）



リンゴの絞りカスをたい肥に利用。



育土のため、緑肥を育て、漉き込み。漉き込んだ後、太陽熱マルチを実施

研修内容を
マニュアル化



水管理、土引き圃場の水平を保つ。最初に雑草の発芽を促し、出たところで、代掻きをして田植えを行う。



インククラー・プラントとしてのマリーゴールド・ソルゴー。ネギにつく虫の天敵の住処とする。



「栽培しながら環境を整えていく」・「環境を整えてから栽培を始める」など1年間学びました。15

★ 松川町環境保全型農業の推進 R2

ウ 学校給食への食材提供(実証圃場で栽培されたもの等)

7月から順に、収穫したものから
学校給食に提供されました。



生産者の皆さんのグループ名も決まりました



栄養士さんの現地視察

凍(お)の豆腐の甘辛の食材として使った。栄養職員の本下めぐ美教諭は「ここは煮物など合うと聞いていたので、小学校のメニューで子もたに人気のシチューにした。販売、無農薬・無化学肥料で栽培された野菜や米を食材に使いたいので、通年使える生産量を期待したい」と話した。

給食を食べる年生の中学学校の「じゃがいも」は、17日には「じゃがいも」の取り組みの第1弾だ。今回のジャガイモは、同グループが約300の畑で栽培し、12日に収穫した「とうや」約1000kg。16日に小学校の校の共通献立「ましのポテトシチュー」、17日には中学校の「じゃがいも」の食材として使った。栄養職員の本下めぐ美教諭は「ここは煮物など合うと聞いていたので、小学校のメニューで子もたに人気のシチューにした。販売、無農薬・無化学肥料で栽培された野菜や米を食材に使いたいので、通年使える生産量を期待したい」と話した。

給食を食べる年生の中学学校の「じゃがいも」は、17日には「じゃがいも」の取り組みの第1弾だ。今回のジャガイモは、同グループが約300の畑で栽培し、12日に収穫した「とうや」約1000kg。16日に小学校の校の共通献立「ましのポテトシチュー」、17日には中学校の「じゃがいも」の食材として使った。栄養職員の本下めぐ美教諭は「ここは煮物など合うと聞いていたので、小学校のメニューで子もたに人気のシチューにした。販売、無農薬・無化学肥料で栽培された野菜や米を食材に使いたいので、通年使える生産量を期待したい」と話した。

★ 松川町環境保全型農業の推進 R2

ウ 学校給食への食材提供(実証圃場で栽培されたもの等)

令和2年11月19日(木) 食育の日

ゆうき給食とどけ隊の食材(お米・ニンジン・長ネギ) その他町内産の食材(里芋・ダイコン)が使われている給食が、小中学校で提供されました。生産者と子供たちの交流として試食会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため見学のみ行いました。



中学校の献立
ごはん・きのこ汁・鮭のもみじ焼き・ひじき
あえ・牛乳



小学校の献立
ごはん・里芋の味噌汁・ネギたっぷりのご
ぼとん丼の具・白菜と塩イカの土佐あえ・
牛乳



★ 松川町環境保全型農業の推進 R3

令和3年の取り組み

令和元、2年の事業に加えて

- 松川町環境保全型農業の推進

ア 映画上映会「いただきます2 ～ここは発酵の楽園～」

オオタ・ヴィン監督と菌ちゃん先生こと吉田俊道氏 トークショー

親子で菌ちゃん圃場体験会(ふれあいガーデン)草&無煙炭火器による炭で土づくり

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施(圃場、参加者の増)新規就農者への支援

ウ 学校給食への食材提供(実証圃場で栽培されたもの等)

エ 下伊那赤十字病院への食材提供

オ ふるさと納税の返礼品としてお米、野菜の提供

エ 循環型農業の推進

町内の畜産農家のたい肥 紹介 牛、ウサギ、豚 たい肥及び液肥の紹介

果樹加工所から排出される絞りがす等のたい肥化見学



★ 松川町環境保全型農業の推進 R3

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施

(圃場、参加者の増)新規就農者への支援

新しい田んぼでの取り組み開始
高低差をなくし、代かきは「深水浅代かき」で行う。
上はトロトロ、下はごろごろを目指す



給食には、まあるくて大きい
サイズがが好まれます。
今年は収量が落ち、次の栽
培のために、秋にたい肥を
入れました。



緑肥を蒔いて、たい肥にし、
太陽熱マルチで処理した畑で、
2年目にして立派なニンジン
できました。毎日、給食で食
べて貰えています。



トウモロコシの周辺に枝豆、畝
間の草も一定の高さで管理した
ところ、カエルが良く来て、アワ
ノメイガをよく食べてくれました。



★ 松川町環境保全型農業の推進 R4

～みどりの食料システム戦略緊急対策交付金～ 有機農業産地づくり推進緊急対策

①生産

- ・栽培研修会や指導者研修の実施
- ・土壌診断および施肥設計による土づくりの定着
- ・果樹における有機栽培の検証

③消費

- ・すべての食材を有機農産物とする学校給食及び食育の実施
- ・松川町内及び都市圏でのマルシェの開催
- ・小学校等と連携した生き物調査の実施
- ・小中学校での、映画「いただきます」上映会の開催による啓発

②加工・流通

- ・中京圏のスーパーや流通業者との商談会の実施
- ・町内施設及び保育園、飲食店への提供検討

④検討会の開催

- ・有機農業実施5ヵ年計画の策定検討会
- ・先進地視察研修(九州)
- ・専門家 吉田太郎氏によるアドバイス



アドバイザー吉田太郎氏

松川町
ゆうきの里を育てよう
有機栽培のすすめ
2022



松川町・松川町農業委員会
松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会
指導：公財 自然農法国際研究開発センター
実証：松川町ゆうき給食とどけ隊

第2版 (R5.3.3)

令和5年3月 オーガニックビレッジ宣言 実施

①有機農業面積（水稻・野菜）の増加

②学校給食における有機農産物提供数の増加

③果樹栽培の有機化

R 2 : 4.6ha (水稻1.6・野菜3)	→	R 9 : 10ha (水稻4・野菜6)
R 2 : 1.8t	→	R 9 : 9.4t
R 2 : 0ha	→	R 9 : 1ha

栽培実証圃場での研修会 & 指導者育成講習会



南信州農業農村支援センターでの雑草調査

有機栽培面積の推移

	R1	R2	R3	R4
ゆうき給食とどけ隊	—	36,238m ²	57,781m ²	71,750m ²
その他の取組	35,058m ²	10,001m ²	16,698m ²	13,596m ²
合計	35,058m ²	46,239m ²	74,479m ²	85,348m ²
割合	0.26%	0.34%	0.56%	0.64%
町内農地面積	13,270,000m ²	13,250,000m ²	13,250,000m ²	13,250,000m ²

ふれあいガーデン 利用数

	H30	R1	R2	R3	R4
DO遊農？ 2区画 600m ²	—	2	2	2	輪作体系 実証圃場
大栢 8区画 904m ²	5	6	5	8	8
南形 14区画 1,831m ²	11	13	13	13	12
宗源原 2区画 400m ²	—	2	2	—	—
富士森 菌ちゃん 496m ²	—	—	9	9	5(全面)

給食での利用率

種類	H30 年間使用量	R2ゆうき食材	利用率	R3ゆうき食材使用量	利用率	R4.ゆうき食材	利用率
じゃがいも	2,480kg	612kg	24.67%	↓ 346kg	13.97%	635kg ↑	25.60
にんじん	3,183kg	224kg	7.03%	↑ 1,277kg	40.11%	1,844kg↑	57.93
長ネギ	1,067kg	507kg	47.51%	↓ 482kg	45.17%	351kg ↓	32.89
お米	R1 13,516kg	540kg	3.99%	↑ 2,520kg	18.64%	2,520kg =	18.64
玉ねぎ	4,450kg	0	0%	↑ 662kg	14.88%	1,065kg ↑	23.93
計	24,696kg	1,883	7.62%	↑ 5,287Kg	21.40%	6,415kg	25.97

R3地産地消補助の実績

	慣行米3割	有機米7割	有機野菜4割	合計 円
中学校	416,196	320,751	137,470	874,417
中央小	553,455	398,937	253,300	1,205,692
北小	117,918	87,064	44,990	249,972
合計	1,087,569	806,752	435,760	2,330,081

R4地産地消補助の実績

	慣行米3割	有機米7割	有機野菜4割	合計 円
中学校	396,792	310,569	178,600	885,961
中央小	509,355	426,489	343,990	1,279,834
北小	105,732	90,321	42,750	238,803
合計	1,011,879	827,379	565,340	2,404,598

松川町オーガニックビレッジ宣言

- 町民の皆さんと一緒に環境保全型農業への取り組みをすすめます。
- 持続可能な農業、持続可能な暮らしを目指し、町の活力・魅力をUPします。
- ゆうきの里としての成長とともに、子どもたちの健やかな成長を目指します。

松川町長 宮下智博 令和5年3月6日



松川町では、世界的な新型コロナウイルスによる影響、また異常気象での農作物への自然災害など、自然環境を強く意識する状況下において、令和元年から、遊休農地を活かす取り組みとして、環境保全型農業（農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業）に取り組んでいます。

環境保全型農業の取り組みとしては、ここ数年で取り組んできた学校給食への※1有機食材の提供と、100年以上、産地として続く「くだものの里」の果樹栽培でも、長年取り組みが行われてきています。

近年、科学的にも解明されてきた栽培技術や育土、植物の成長等について、さらなる探求を高め、松川町の農産物のブランド化と、担い手の育成、暮らしやすい地域づくりを進めていきます。

※1有機農産物とは、農薬や化学肥料を使わず、遺伝子組み換え技術を使用せず、環境への負荷をできる限り低減した農産物で、有機JAS規格を取得したものです。学校給食への提供する農産物すべてが有機JAS規格を取得しているわけではありませんが、ここではあえて有機農産物と表記しています。



★ 松川町環境保全型農業の推進 R5

～みどりの食料システム戦略緊急対策交付金～ 有機農業産地づくり推進緊急対策事業

① 消費者向け(講演会・食育の推進)

- ・7/30 午後1:30～3:00 堤未果 講演会
「日本が売られる」「食が壊れる」著者
- ・映画「いただきます」1.2の上映会・オオタ監督の講演会実施。
小中学校及びおひさま、保育士対象
- ・味覚(飯田産業センター)
& 栄養素調査(メディカル成果物研究所)の実施
- ・マルシェへの出展(町内、若武者マルシェ・都市部等)
- ・全国オーガニック給食協議会への参加(フォーラムへの参加)

③ 土づくり(育土)について

(土壌診断によるこれからの農業について)

- ・SOFIX農業推進機構での微生物、炭素量が見える土壌診断。
実証圃場(野菜)9か所。田んぼ3か所。
果樹園では、りんごを3圃場、その他の果物で5圃場

④ 生き物調査の実施

(環境による生物多様性の状況を知る)

- ・夏と秋、収穫前 畑での生き物調査。
長ねぎの慣行栽培と、有機栽培
(インセクタリープランツによる生き物の調査)
- ・小学生による環境調査
(田んぼのいきもの調査)7/5 中央小2年生予定

② 生産者向け(ゆうき給食とどけ隊、実証圃場での研修会実施)

- ・4月～1月まで全12回の研修会を実施。& マニュアル作成
- ・実証圃場での研修会及び、毎回6時から座学を予定。
講師: 公財)自然農法国際研究開発センター
- ・指導者研修会 2名受講 (2年目)
- ・環境保全型農業への取り組み支援のための農機具のレンタル
(除草付き田植え機・ハンマーナイフモア付きトラクター)



遊休農地対策として 新たに取り組んできた遊休農地対策事業進めてきた結果

従来行ってきた遊休農地対策

×

①人・農地プランの実質化

新規就農者の受け入れ支援(里親研修制度)

⇒

地域おこし制度を活用した ～果樹研修制度～
人・農地プランの策定によりサポート体制が生まれる

新規法人参入の支援

⇒

人・農地プランの策定により各種支援事業の幅が広がる

労働力の補完

⇒

新規就農者による草刈り・剪定等の作業受託
人・農地プランの策定によるサポート体制が生まれる

農地の集積・集約化

⇒

基盤整備、団地化など検討する際に人・農地プランがあることで相談しやすい。

農地の斡旋、マッチングによる流動化

⇒

人・農地プランがあることで、地域への相談がしやすい。
就農したあとの支援も受けやすい

相談員に集落支援員を配置。就農者は地域おこし協力隊。国の支援があり実施できている事業です

遊休農地対策として 新たに取り組んできた遊休農地対策事業進めてきた結果

従来行ってきた遊休農地対策

×

②1人1坪農園の推進

新規就農者の受け入れ支援(里親研修制度)

⇒

果樹栽培を希望する就農者だけでなく、有機農業を志す就農者の移住がある

新規法人参入の支援

⇒

環境に配慮した土づくりを学ぶことができる。新たな資材の(霜対策や、農薬に代わる)開発、販売開始。

労働力の補完

⇒

.....

農地の集積・集約化

⇒

遊休農地が有機栽培を行う際に適している。緑肥での管理も可能で、農地の借り受けが増加。

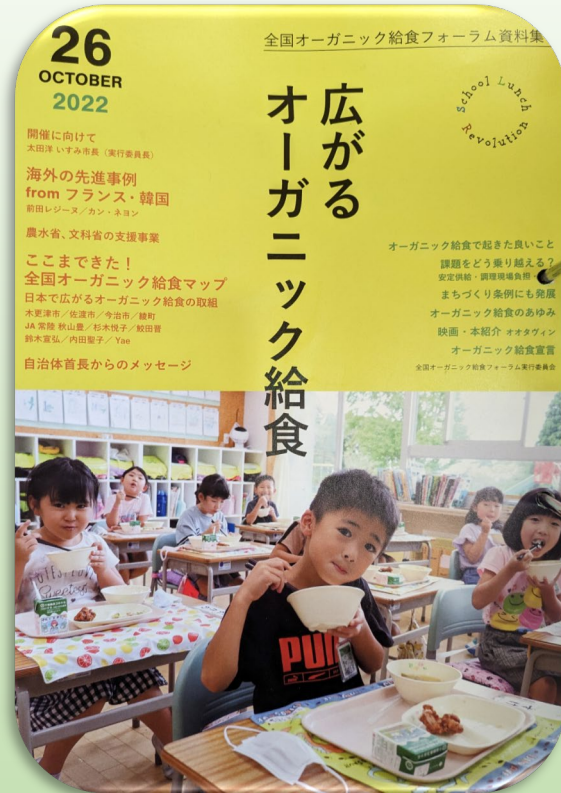
農地の斡旋、マッチングによる流動化

⇒

有機栽培、家庭菜園に新規に取り組みたいといった希望者あり。また今年度から下限面積が撤廃されたことから、家庭菜園程度の農地の売買も始まった。

学校給食関係書籍・DVD・動画での紹介

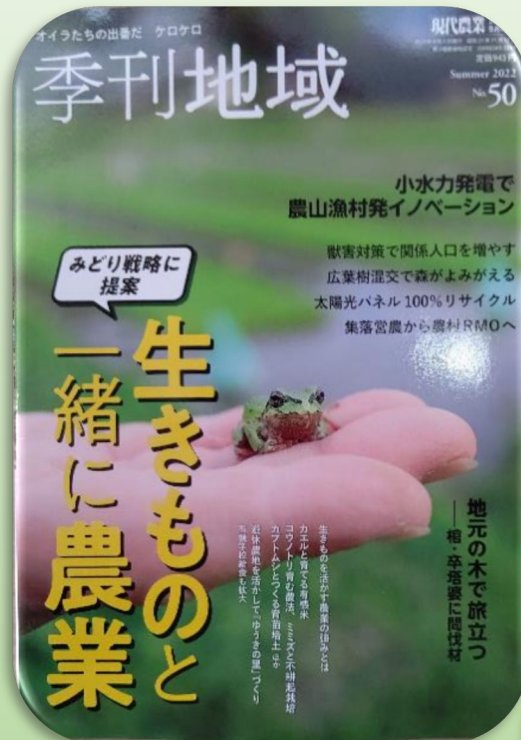
アジア太平洋資料センター
PARC 制作
(2022発行)



2022.10.26開催

全国オーガニック給食フォーラム資料
オーガニック給食マップ事務局

農文協発行 季刊
地域 50号
(2022.7.5発行)



令和5年1月に授賞式に参加。新井ゆたか長官から賞状が手渡されました。



農文協発行
有機給食スタートブック
(2023.4.4発行)



子どもたちが学校で毎日のように食べる給食。
給食は、子どもたちの健康と成長を担うだけでなく、地域の食と農を結びつけます。
どのような食材を使うのか、費用負担をどうするか、誰に提供するのか。
給食をめぐる選択は、どのような地域を実現するのか、という「自治」の実践と切り離せません。
日本と韓国の事例から、地域の未来を形作る給食のあり方を考えます。



事例紹介 千葉県いすみ市／長野県松川町／東京都武蔵野市／韓国ファソン市

ゆうきの里を育てよう～
安心、おいしい、楽しい給食がサステナアワード
2022で消費者庁長官賞を受賞しました。

松川町女性農業委員の活躍

人農地プランの策定・その後の任意団体の結成に尽力

◆【任 期】

平成28年12月16日～令和元年12月15日 委員16名のうち、女性委員3名
令和元年12月16日～令和4年12月15日 委員16名のうち、女性委員3名
令和 4年12月16日～令和7年12月15日 委員17名のうち、女性委員5名

平成30年 トップバター モデル地区 増野地区 担当 北沢ひろみ委員
当時1期目・現在は3期目 3期目となり会長代理として活躍中

※ 楽しみまし農 代表 コロナ禍においても、野菜の収穫を通じて、
地域のコミュニケーション低下をカバー。

遊休農地で有機の土づくりを行い、野菜を栽培。会員への販売及び
学校給食への提供を実施。



北沢ひろみ委員

しゃーない。
やってみるかな。
みんなで集まるか。

これから話し合
いが行われる
地域にも行くに。
みんなにも声か
けるし。



臼田美穂子委員

やめる前に
形にしたいで、
やってみるね。

令和元年 2番目 モデル地区 大沢地区担当 臼田美穂子委員
当時1期目、任期終了時退会。

※ あぐり支援ゆめ農隊のなんでも相談員。新規就農者の相談や
地域の農業者の皆さんの相談を受ける窓口となって活動。

松川町小中学校の栄養士・調理員の活躍

コロナ禍 令和2年3月、小中学校は一斉休校...

休校・調理の仕事はない。どうしたらよい？

4月、新学期は通常に戻る？

子供たちのため、
衛生管理も含めて
「給食」のことを考えて
みよう
新たに有機の食材の
栽培も始まった

- ・松川町を自分たちで書いてみる
- ・実証圃場を探してみる
- ・栽培農家さんにインタビューする
- ・栽培野菜について調べる



すべてをマップに入れてのせる！
そして児童に知ってもらおう！

オリジナル新メニュー
作っちゃお！

自分たちが学べる
場所がほしい！

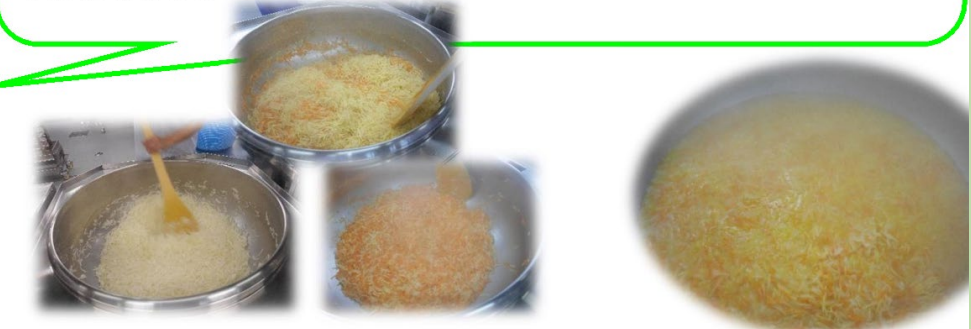
ここで、自分たちだけが給食を作っているのではなく、多くの方々に支えられ仕事ができていることを実感する。



令和5年4月結成



ゆうき100%にんじゃがポタージュ
【勇気100%忍者がポタージュ】
と命名し、ゆうき給食とどけ隊の想いを届けるメニューを開発した。



今後の取り組みについて

今まで取り組んできた中で、農業委員の皆さんの話し合い、人農地プラン策定のための話し合い、学校給食に取り組むための話し合いなど、みんなで考え、アイデアを出し合って何かを決めていくということがとても大切だと感じています。

コロナ禍で人が集まらないといった時間もあり、なかなか進まない状況です。話し合いができてもしっかり話し合い後の活動につながらないことなどたくさんあります。

人農地プランを策定する中で、女性農業委員にご尽力いただき誕生した、「楽しみまし農」や、「あぐり支援大沢ゆめ農隊」など、コロナ禍でも活動を進めてきて、実際に移住者の方への支援などもできそうな雰囲気が生まれてきています。

また、有機農産物を学校給食に届けようと結成された、「ゆうき給食とどけ隊」のメンバーは当初の5名から10名に増え、さらには、学校給食を作っている、栄養士や調理員の皆さんがあるまった「ゆうき給食づくり隊」も結成されていて、学習会など積極的に行っていただいています。

話し合ったり、動いたりすることで、新しい取り組みができたり、いままで課題だったことの解決につながる活動が生まれたりしています。

今後も話し合いの場所を大いに作って、地域の皆さんの思いをかたちにしていけたらと思っています。



～ 以上です ～
ありがとうございました。